



第 38 号
 発行者 武義高等学校 同 窓 会
 題 字 藤 田 多 美
 (高21回)

梅は	霜雪を	うま	ず
清香を	経て	おく	せず
発す	たくま	しく	

【伝統訓】 【校訓】



同窓会会頭 土本 恭正
 (高28回)

同窓会の皆様におかれましては平素より古城会に対しご協力をいただきありがとうございます。

昨年は五月にツアーオブジャパンが開催され多くの自転車愛好家が美濃市を訪れレースを盛り上げてくれました。

また、六月には美濃クラシックカーフェスタが六年ぶりに復活し多くのファンが美濃市を訪れ「うだつの上がる町並み」にずらりと並んだ旧車の数々を楽しそうに笑顔で見て回る光景が見られました。

四月の美濃祭りに始まり春のイベントで美濃市が盛り上がりました。

もちろんこれらのイベントには武義高校の生徒がボランティアとして加わり裏方としてイベントの成功の一助となってくれています。

八月には美濃ロータリークラブと協力して美濃橋下の川原の清掃もやってくれました。

また、武義高校ではビジネス情報科の生徒が「やめれ！闇バイト」という啓発動画を作って警察から表彰されています。現代の問題に対する意識の高い行動だと感心させられました。

昨年より始まった武義高校の生徒が市役所に勤務する「未来創造課」も継続され市長への色々な提言をしてもらっています。

そして十一月には美濃市長選挙が行われ新しい市長が誕生しました。

美濃市の時代の流れの変化を感じた一年となりました。

今まで挙げた武義高校の活躍は一部であり、あらゆる場面で活躍してくれています。

古城会の活動はというと本

会・名古屋古城会・東京古城会ともにメンバーの入れ替え、補充が出来ず、会の活性化が図れていないというのが現状です。

これは古城会だけでなく私が所属する任意の多くの団体で共通する悩みです。新型コロナウイルスの流行でストップした三、四年間が非常に大きく影響していると思われます。

今年は何とかその課題の解決に取り組んでいきたいと思っています。

先ずは毎年秋に開催される古城会総会に出席していただき、武義高校の卒業生であることを今一度思い出してください。

そして現役の高校生も応援していただきますようお願いいたします。



校長 古田 寿朗
 (高38回)

日頃より母校を温かく支えてくださっている同窓生の皆さまに、心よりお礼申し上げます。着任以来、地域の皆さまの力強い支援と、同窓生の皆さまの母校への深い思いに触れ、本校が長い歴史の中で築いてきた信頼の大きさを改めて実感しております。

本校は、美しい校舎と落ち着いた学習環境に恵まれ、真面目で素直な生徒たちが日々の学びに励んでいます。教職員も教育に対して真摯に向き合い、美濃市役所をはじめ地域の企業・団体の皆さまの協力を得ながら、生徒一人ひとりの成長を支えています。

本校は、校訓「うま・おく・せず・たくましく」の精神を礎に、時代の変化に応じた改善を進めながら、生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことを目指してきました。近年策定したスクールミッションでは、本校が

果たすべき社会的役割として、「個性や能力を伸ばし、知識と技能を確実に定着させる教育の推進」を掲げ、さらに「生徒が自分の力で考え、判断し、未来を切り拓いていくための自走力の育成」を、教育活動全体の柱としています。また、地域に根差す高校として、美濃の地と深くつながりながら、地域社会と連携した学びを重視しています。ふるさと教育や探究的な学びを通して、地域の魅力を知ること、地域課題に向き合い、解決策を考える経験を積み重ねること、地域社会の発展に寄与できる人材の育成をめざしています。

中でも「自走力の育成」は、地域社会と連携した学びにより進めています。ビジネス情報科の課題研究では、地域の課題に行政の一員として向き合う「未来創造課(協力：美濃市役所)」をはじめとして、地域資源の活用を行う「むぎつ酒(協力：小坂酒造)」、観光促進に協力する「スマイルフェス(協力：美濃青年会議所他)、次世代育成に寄与する「Safety Mugi 闇バイト防止啓発(協力：関警察署)」など、地域と連携した課題解決型学習に取り組んでいます。また、普通科でも総合的な探究の

時間において、「中学生の学力向上支援（協力・美濃・関市中学校）」や「外国人住民の防災対策（協力・美濃市役所）」など、地域課題に向き合う学びを実践しています。

これらの学びでは、想定外の状況に遭遇することもあります。生徒は自ら考え判断して対応します。もちろん、失敗することもあります。しかし、武藤鉄弘前美濃市長が未来創造課の生徒たちに「失敗しなさい。そこから学べばいい」と言ってくださったように、自ら考え、自ら行い、自ら振り返る機会が生徒の自走性を高めると思っています。このような機会が、生徒たちの地域社会人としての自覚を深め、持続可能な社会づくりに貢献する姿勢を育んでいくのです。

これらの教育活動をより充実させるためには、地域を支える同窓生の皆さまのご理解とご協力が欠かせません。今後とも、母校の発展のために温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



東京古城会の活動

東京古城会 会長

野 倉 学

（高22回）

東京古城会は令和七年六月七日（土）に東京四谷の「主婦会館」で総会（懇親会）を開催致しました。土本古城会会頭、古田武義高校長、島田美濃市教育長にご来賓としてご臨席賜り総勢二十八名での開催となりました。

総会の出席者は、これまで出席いただいていた年長者の不参加などにより二十五名と少し寂しくなりましたが、皆さんテーブルを囲んで料理をつまみお酒を飲みながら楽しそうに歓談していました。ご来賓の方々からは美濃市の現状や武義高のお話などをお聞きして懐かしそうでした。出席者が少なかったことは残念でしたが、皆さんそれぞれの近況などをお話され楽しく歓談されていた様子でした。そして最後に武義高校歌を全員で合唱して記念撮影をして無事終了しました。

また十一月二十二日（土）には十二名が出席して次年度の総会の打合せのため幹事会を「主

婦会館」で開催致しました。高齢化による会員減少のおり若年層の勧誘など様々な意見交換を行いました。

次年度の東京古城会総会（懇親会）は令和八年六月六日（土）に東京四谷の「主婦会館」で開催すること致しました。一人でも多くの皆様にご参加いただきたいと期待しております。

東京古城会ホームページでは総会開催の情報や写真などを掲載しております。スマートフォンやパソコンで「東京古城会」と検索してご覧いただければ幸いです。

名古屋古城会の活動

名古屋古城会 前会長

山 口 啓 三

（高13回）

名古屋古城会の再生に向けて

名古屋古城会は総会懇親会を隔年で開催し、令和七年五月に名古屋市内で、本校古城会土本会頭・古田校長先生のご来賓のもと、会員三十三人が集い総会懇親会を開催しました。

記念講演は、温泉博士として名高い下呂温泉の温泉博物館名誉館長古田靖志様（高32回）の

温泉にまつわる話を興味深く拝聴しました。そして最後に全員で校歌を声高らかに斉唱して終りました。

しかし総会の席上、役員体制について兼ねてから高齢のため「会長を退任させて頂きたい」と役員会等で訴えてきましたが、後任体制が決まらないまま総会に臨むことになってしまいました。総会の席上でも役員体制が決まらないまま終了するという不手際な状態となりました。これは会長の不徳の致すところであり大変申し訳なく心痛の極みです。

このため片岡前副会長と相談し、とにかく会の存続について会員の意見を改めて聞くこととして、昨年八月にアンケートを実施しました。その結果、会是非存続をしてほしい、総会は簡素にして役員は各回生で持ち回りで交替して行えば良い等々貴重なお意見を頂きました。

従って、とにかく会の存続のために、旧役員を中心に体制づくりをしなくてはならないとの思いで、「名古屋古城会の再編」に向けて二〇回生以降の会員で世話人会を立ち上げることとし、このほど数人の方の内諾を頂き、令和八年四月までには、再生のための世話人会を立ち上

げることとしました。

名古屋古城会の灯を消すことなく、令和九年にも名古屋地区の武義高同窓生が集い、次代の方々にバトンタッチを致したく思います。

同窓の皆さん、同級生を誘い合って名古屋古城会に是非とも結集してください。

古城会総会報告

古城会事務局

五十川 竣 哉

（高62回）

令和七年十月四日（土）に、美濃緑風荘にて古城会総会を開催しました。総会には五十八名が参加し、以下の次第にしたがって滞りなく議事が進行されました。

- 1 開会のことば 【司会・副会頭 堀端 和志】
- 2 会頭挨拶 【副会頭 工藤 智】
- 3 校長祝辞 【会 頭 土本 恭正】
- 4 来賓挨拶 【学校長 古田 寿朗】
- 5 来賓紹介 【美濃市長 武藤 鉄弘】
【県議会議員 佐藤 武彦】

6 議 事

【事務局 五十川 竣哉】

【議長…会 頭 土本 恭正】

①令和六年度会務報告について

【事務局 五十川 竣哉】

②令和六年度一般会計決算報告について

【事務局 進 紗世子】

③令和六年度特別会計決算報告について

【事務局 進 紗世子】

④会計監査報告について

【監 事 市原 常晴】

⑤令和七年度会務計画案について

【事務局 五十川 竣哉】

⑥令和七年度会計予算案について

【事務局 進 紗世子】

7 閉会のことば

【副会頭 西村 康利】

その後、以下の通り講演会を開催しました。

司 会

【理 事 松嶋 哲也】

講師紹介

【会 頭 土本 恭正】

講 師 山下 清司氏

(高28回)

演 題

『故郷への恩返し』

～市長として描く、街の未来図～

お礼の言葉

【会 頭 土本 恭正】

同窓会総会での講演

関市長 山下 清司氏

(高28回)

故郷への恩返し

～市長として描く、街の未来図～

私は関市黒屋の専業農家の長男として、のんびりと育ちましたので、武義高校に入学したころは、土本君(現・土城会会頭)はじめ美濃市の同級生のパワーに圧倒される毎日だったのを覚えています。そんな彼らに影響を受け、バイクの免許をとり友人たちとツーリングに出かけたりと、高校生活を存分に楽しみました。卒業後は、農業大学に進学し、その後、関市役所に入庁。農務課で長く農政に携わり、



を運営しています。人口減少の中、広域連携をしながら持続可能な地域づくりを目指していきます。

一市民としての活動も積極的に行っています。酒造りのための米を市民と共に育てる「さんやほうサポーターズ」では、関市で品種改良されたお米「みのにしき」をつかった地酒「さんやほう」などを生み出し、地域の魅力を発信しています。豊かな自然を将来世代に引き継ぐため、希少種ウシモツゴの保護や外来種駆除、田んぼダム推進などの環境保全活動のほか、地元黒屋の獅子舞保存会の一員として伝統文化の継承活動にも力を入れています。

今後、武義高で培われた精神を胸に、関市の未来を築くため市民と共にまちを創る「共創」のもと全力で取り組んでいきます。

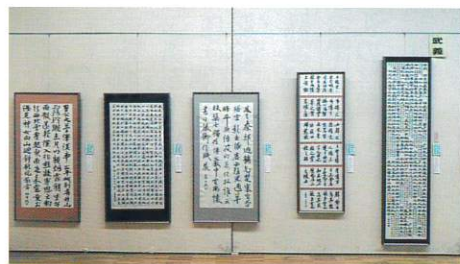
在校生の活躍

書道部 山内 小陽奈

私は書道部に入学し活動する中で、共に頑張る仲間がいることの大切さを実感しました。書道部では主に、法帖を用いて中



国や日本の古典の特徴を捉えながら作品制作をする臨書に取り組んでいます。各自が集中して自分と向き合う時間は、孤独を感じることもあります。集中力が切れたり、もうやめたいなど思ったこともありましたが、そばで同じように努力する仲間の存在に、何度も励まされてきました。その成果として、岐阜県高等学校書道展錬成競書大会では最優秀賞を受賞しました。この大会では、武義高校の書道室で制作した作品を出品するのではなく、会場で講師の先生に作品制作の様子を見ていただきながら作品を書きあげました。他校の活動の様子を知り、講師の先生に直接ご指導いただくことができた大変貴重な経験でした。このように、様々な作品に触れ、仲間と切磋琢磨する中で、



「写真部への感謝」

写真部 岡 田 梨 菜

高校書道部の名をさらに高められるよう頑張つていきます。

新たな視点を得るとともに、自分の作品を見直すきっかけを得ることができました。

秋には、岐阜県の書道パフォーマンス大会に出場しました。縦3.3m×横4mの紙に大きな筆で書くのは難しく戸惑うこともありましたが、非常に貴重な体験となりました。観てくださる方々に楽しんでいただけるよう、文字の表現だけではなく振付も部員全員で試行錯誤を重ねました。本番直前まで練習を重ねた結果、理事長賞を受賞することができました。

このように、共に頑張る仲間や、支えてくださる先生方、家族の存在があるからこそ、私は書道を思いきり楽しむことができます。今後も公募展や大会が続きますが、唯一無二の仲間たちと高め合いながら、武義

写真部は今年度も多くの部員が、各種コンテストで優秀な成績を収めることができました。これは各自が鑑賞者に伝えたいビジョンを明確に持ち、様々な工夫を凝らして具現化した成果の現れだ。また、撮影後に実施するプレゼンテーションも、部員のスキルアップに役立っている。撮影者が何を伝えたいのか、どのように撮影したのかを詳細に発表することで、お互いに良い刺激を受けることができた。プレゼンテーションの効果は他にもある。コミュニケーション能力の向上だ。写真部の目標である「コミュニケーション能力を身に付け、高める」を常に意識しながら、大勢の部員と顧問の先生方の前で、作品を提示しながら自分の思いを余すことなく伝え、質問に対しては、相手が理解・納得できるように説明を尽くすという経験を積み重ねてきた。そのおかげで、大学入試の面接試験にも自信を持って臨むことができた。私自身を振り返れば、入部当初は力

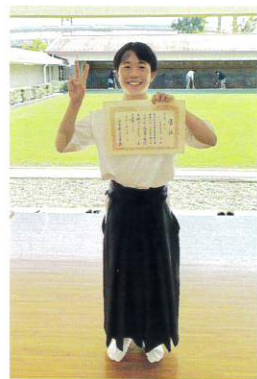
メラの扱いにも不慣れで、見る人に感動を与える作品創りとは何かもよくわからない状態だった。しかし、経験豊富な先生や先輩方が親切丁寧に教えてくださり、徐々に上達し、ついに全国レベルの大会で入賞することができた。入賞は自信につながり、新たな挑戦への意欲を高め、向上心を持つて活動することができた。さらに部長として、リーダーシップや責任感を身に付けることもできた。写真部での三年間は私の財産であり、感謝の気持ちでいっぱいである。

東海弓道選抜大会に

出場して

弓道部 二 俣 楽

高校から弓道を始め、運よく一年で東海大会に出場することができました。結果は二回戦まで、嬉しさと同時に、自分の力だったのか、運がよかっただけなのかと悩む気持ちも生まれました。スポーツも勉強も、そ



の日の気分が調子が変わることがあります。しかし、弓道では気分が左右されないことを大切にして練習しています。

そのために、私はあえてモチベーションを上げようとはしません。やる気が高い日と低い日で、練習量や取り組み方が変わってしまうと、安定した力には身につかないと考えたからです。気分に関係なく、毎日同じように弓を引き、基本を大切にすることを意識しています。

また、中学校ではどの部活動にも所属していなかったため、高校で初めて部活動に本気で取り組みます。最初は大変でしたが、仲間と練習する時間が楽しく、続けることの大切さを学びました。部活動を通して、結果だけでなく、毎日の積み重ねが自分を成長させることを知りました。この学びを、これからの学校生活にも生かしていきたいです。

水泳部 河 合 愛優輝

武義高校のプールは老朽化のため、現在使用できません。そのため、放課後は関高校へ移動し、合同練習を行ったり、校内でできる体幹トレーニング、ラニングを自分たちで考えて行ったりしています。さらに、

市民プールなどへ自主的に行き、貴重な泳ぐ機会を積極的につくり、泳力を伸ばすために頑張っています。先生方や地域の方、周りの人たちの支えがあって、私たち水泳部は練習ができています。この思いを大切に日々努力し、周りの人から愛され、応援してもらえる団体でありたいです。

今年度、武義高校水泳部はリレーで東海大会出場を目指して練習してきました。リレーでは誰か一人の力に頼るのではなく、四人ともが泳力を伸ばしたいと考え努力しました。そのため一人一人が自分の課題に向き合い、課題意識をもって練習し、力を伸ばしました。水泳の競技人口は減っている中、武義高校では四人ともが高い泳力をつけ、東海大会に出場することができました。東海大会では県大会では味わうことのできない競技レベルや緊張感を感じることもできました。部員それぞれが頑張り、四人の力を合わせて泳ぎ切れたことが嬉しかったです。リレーを通して仲間と協力することの楽しさを実感することができました。今後も一人一人が頑張り、水泳部全体が成長して、来年も東海大会出場を目指して頑張ります。